



外来診療案内

【受付時間】午前 8:30～11:00 午後 13:00～15:00 【診療時間】9:00～17:00

【診療科】

2025年5月現在

科名・専門外来名	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
リハビリテーション科 (ボツリヌス外来)	吉野				吉野		影近	影近	高橋	浅野
内科	白田		白田 木倉		白田 飯田		白田 今村(循環器) 木倉		木倉 泉	
脳神経内科				小西		古田	小西	服部		
整形外科 (リウマチ外来)(手足の外科外来)	橋本 高田	高田 (リウマチ)	橋本 瀬川		高田		橋本 高田		橋本 瀬川	
脳神経外科 痙縮(ITB)外来ペインクリニック	宮森		中島		宮森			柴田 中島	宮森	
泌尿器科					交代制	交代制	横山	横山		
精神科				永井		森			麻生	麻生
皮膚科				木村						
眼科										②④豊田
耳鼻咽喉科				浅井			①②④麻生 ③藤坂			
歯科	小倉	小倉	小倉	小倉	小倉 中條	小倉	小倉	小倉	小倉	小倉
糖尿病外来 (内科)			白田	白田 ①③⑤岡部	白田	白田				
甲状腺外来 (内科)			白田	白田 ①③⑤岡部	白田	白田				
嚥下外来(内科)					(隔週)木倉					
腎臓・高血圧外来(内科)					飯田					
パーキンソン病外来(脳神経内科)								服部		
高次脳機能外来(脳神経外科)								柴田		
小児科(小児整形外科)	峰松 森下	峰松	峰松		森下		森下	森下	森下	森下
小児科(小児神経科)	本郷 平岩 倉本 宮森 松澤 五十嵐	本間 平岩 倉本 宮森 五十嵐	本郷 山谷 松澤 宮森 倉本 五十嵐	本郷 山谷 松澤 宮森 五十嵐	本間 倉本 宮森 松澤	本間 ②④岡田 宮森 松澤 岡部	本郷 松澤 宮森 倉本	本郷 松澤 宮森 倉本 岡部	本郷 宮森 五十嵐	本間 倉本 宮森 五十嵐
てんかん外来(小児神経科)	本郷		本郷	本郷			本郷			
子どもの心の外来(精神科)	永井		森 永井		森 永井	永井	森	森 永井	森 永井	森 永井

※完全予約制となっている診療科もありますので、事前にお問い合わせ下さい。※○数字は、第○曜日

【編|集|後|記|】

今年の冬は例年以上の大雪で除雪作業に苦労された方も多かったのではないのでしょうか。私も除雪をしながら穏やかな温かい春の訪れを期待しておりましたが、寒暖差が激しく期待通りとはなりません。今年も多数の新人職員が入職しましたが、期待通りの職場であることを願うばかりです。

相談支援科 山本 浩二

【お問い合わせ】

社会福祉法人 富山県社会福祉総合センター
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
地域医療福祉連携室

〒931-8517 富山県富山市下飯野36番地
電話 076-438-2233(代) FAX 076-438-8463

直通電話 076-438-2207

ホームページ <https://www.toyama-reha.or.jp>
E-mail renkeisitu@toyama-reha.or.jp



病院の情報を
もっと知りたい方は
ホームページに
アクセスしてね



地域医療福祉 連携室だより

Toyama Prefectural Rehabilitation Hospital & Support Center for Children with Disabilities

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

28号
2025年5月

Topics 病院長のご挨拶

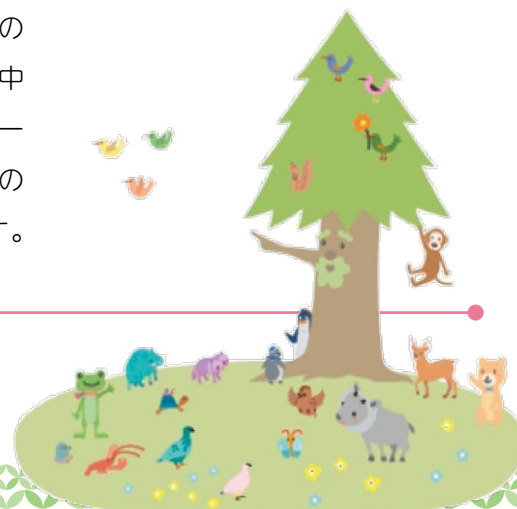


畑崎 喜芳

当院は『富山県リハビリテーション病院・こども支援センター』という名称ですが、こどもセンター部門では発達障害などの心の問題を抱えるお子さん、肢体不自由のお子さん、医療的ケア児のお子さんなどを治療、療育させていただいております。その中で近年、発達障害のお子さんの増加が際立っています。発達障害とは ASD(自閉症スペクトラム)、ADHD(注意欠如多動症)などですが、それに加えて不登校のお子さんも増えています。昨今少子化が進み、どこの病院、クリニックでも小児科の患者数は減少の一途を辿っています。

そんな中であって当院の小児科外来は9つの診察室を使って午前、午後ともほぼ予約満員の状態で運営しています。どこの病院でも小児科だけでこれだけ多くの診察室を使っている所はないでしょう。しかも小児科の患者数は右肩上がりで年々増加しており、新患を受け入れることが困難な状況になりつつあります。どうしてこのような時代となってしまったのでしょうか。ひとつには子どもたちを取り巻く社会の変化があると思われます。それとともに、子育てをするお父さん、お母さんの育児に対する姿勢や意識も変化してきたように感じます。その育児の仕方を工夫していけば発達障害のお子さんもある程度は減少し、例え発達障害があったとしても学校や社会に適応していけるようになるのではないかと考えています。その育児のコツとは『子どもの力を信じて何も言わずに黙って見守る』、『子どもが話しかけてきたら必ず耳を傾ける』、『褒める』ことだと思っています。この『褒める』ですが、“叱ってやらせる”のではなく“褒めてやらせる”ということはとても大切で、当院の保育士さんたちが子育てのコツとして『ほめほめ大作戦』という動画を当院のホームページにアップしていますので、ぜひご覧ください。

さて、超高齢化が進む現在の日本においてリハビリテーションの果たす役割もますます大きくなってきました。そのような状況の中で当院にご紹介いただいた患者さんにできるだけのリハビリテーションをさせていただき、できれば自宅にお返しするのが私たちの役割と考えています。今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。





New Face

新任医師の紹介



脳神経外科、
ペインクリニック専門外来 **中島 良夫**

なか しま よし お

- ① 高校時代に、文系なら法学部、理系なら医学部と決めていました。
- ② ご高齢でも元気に自立されている方。
- ③ 4年前から弓道をしています。これからも弓道教室へ通います。プロ野球も大好きです。
- ④ インドア派です。自分の部屋で、テレビ、インターネット、本など。晴れた日は、15分くらいで歩いて行けるところを散策（徘徊?）しています。
- ⑤ 新潟県上越市出身です。病院から見える立山がすごく雄大で感動しています。富山県内で痛みの治療、ペインクリニックを広めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

診療科 名前

- ① 医師を目指したきっかけ
- ② 尊敬する人
- ③ 趣味、特技
- ④ 休日の過ごし方
- ⑤ 一言 PR



小児科 **岡部 真子**

おか べ ま こ

- ① 兄が心疾患だったことが大きな理由かもしれません。
- ② いっぱいいます。
- ③ 意外に走るのが速いです。甘いものは一瞬で食べられます。
- ④ 子供たち3人の相手を順番に…気がついたら夕方に。
- ⑤ はじめまして。このたび、富山大学から参りました。大学病院では、病棟で関わったお子さんの退院後のフォローを県リハビリテーション病院にお願いする機会も多くありました。また、近年増えている発達にでこぼこのあるお子さんたちについても、県リハを頼りにさせていただいておりました。そうした経緯の中で、今回、富山県内でも最大の医療・福祉の拠点である県リハに関わらせていただくことを大変ありがたく思っています。現在は病棟を担当しております。お子さんが少しでも快適に、そしてご家族の皆さまが少しでも穏やかな気持ちで過ごせるよう努めます。まだ不慣れな点も多くありますが、皆さまからご指導いただきながら、学んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携室の紹介



後列左から 井本 佐々木 久保 堀田 帯刀 浦野
 中列左から 朝倉 小川 土合 斉藤 杉本 荒木
 前列左から 中田 山本 畑崎 岡本

新任者のことば

4月より地域連携室勤務になりました。電話対応が多く、緊張のため、なかなかスムーズに言葉が出ないことが反省の毎日です。円滑な入院調整・顔の見える地域連携が出来るように頑張りますのでよろしくお願いいたします。

地域医療連携室 副室長 岡本 祐美子

身内の介護をきっかけに支援する立場で仕事がしたいと思い、4月より相談支援科で働いています。患者様やご家族様はいろいろな思いをかかえていらっしゃるその気持ちに寄り添いながらも、多職種と連携し、患者様の退院日にお互いに「ありがとうございました」と言える退院支援を目指します。

相談支援科 朝倉 さやか



Topics

富山県失語症友の会の紹介

富山県失語症友の会とは

富山県失語症友の会（以下、友の会）は、脳卒中などで失語症を患った方を対象とした自助グループとして、昭和54年に発足しました。失語症の当事者の方を中心に活動が展開され、県内の言語聴覚士がサポート役として、今日に至るまでその活動を支えています。友の会は今年で47年目を迎え、長きにわたって富山県の失語症のある方や、そのご家族と共に歩みを進めてまいりました。



活動について

今年も4月に定期総会が行われ、およそ15名の会員とご家族にご参加いただきました。総会の後には、当院の作業療法士による「脳卒中後の趣味活動について」と題した講演を開催し、会員からは、趣味の継続に重要とされる目標の設定や効果の実感、支援者の存在などについて、ご自身の経験に絡めて感想が話されました。

友の会では、富山支部と高岡支部に分かれて、月に一度、月例会を行っています。参加者全員で取り組めるような言語課題やレクリエーションなどを、言語聴覚士が提案し、頭や身体、感性を働かせて交流を深めています。その他にも、日帰り旅行と一泊旅行をそれぞれ年に1回ずつ企画し、野外訓練として行っています。疾患を患ってからは、外出の機会がほとんどなくなってしまった会員も多くおられますが、この活動は失語症のある方だけでなくご家族にとっても、貴重な機会となっています。集まった際には、ご家族同士で日々の出来事やお悩みなどの情報を交換され、お互いに心の支えとなっています。

ご案内・会員募集

コロナ禍に一度は活動を止めていた友の会ですが、令和5年から活動を再開し、徐々に活気を取り戻しています。年齢を重ねたりして退会を余儀なくされる方もおられますが、最近新たに入会された方もご活躍されています。会員やご家族からは、友の会は「なくてはならない、必要なもの」と強い願いが聞かれており、今後も失語症に悩む多くの方にとって、友の会が心の居場所であれたらと考えています。新川地区ではまだ十分な体制を整えられていませんが、地区を問わず、失語症でお困りの患者様やご家族がいらっしゃいましたら、事務局へご連絡・ご相談ください。

連絡先：☎076-438-2233（代）

富山県失語症友の会事務局
 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
 成人療法課 言語聴覚士 平澤 辰憲

